



「笹川杯作文コンクール 2009」～中国語で応募～ 第6回優秀賞作品

※原文に忠実に和訳しました。

「日本の発明工夫コンテストに参加して」

北京市 張鳳香

笹沼女史は、今や私のアイドルだ。

洗濯機の使用が終わる度、糸くずを集めるそのポケットを取り出しては掃除している。戻すのを忘れて、洗い上がった衣服が糸くずだらけになったことがある。こうして日本では“横綱級の市民発明”であるポケットとその発明者である笹沼女史を知った。

日本に発明や工夫の土壌があることは知っている。多くの主婦が発明や創造に熱中しており、笹沼女史はそうした中でも優れた人物なのである。私は彼女を尊敬している。彼女のようになりたいと夢見ていた。

程なく、期せずして私の発明の夢が実現した。先日、姪の面倒を見ることになり、こうしたことは経験したことがなかったのだが、子供はすぐ布団を蹴り出してしまおうので、私は、一晩中布団をかけなおしてやらなければならなかった。そうして何日か過ごすうち疲れてしまった私は、何人かの身内に聞いてみた。すると、「子供が布団を蹴り出したら、かけてやればいい」と皆が言うのだ。参ってしまった。将来、子供ができれば、またこういうことになるのか。どうすればいいのか、方法を考えないと。ある日、夫とその話をしていた時にふとインスピレーションが湧いた。その時の思いつきが結果的に初めてのミニ発明、子供の布団蹴り出し防止装置となったのだ。

笹沼女史が自分のミニ発明に興味を示した人に譲渡し、実現化を任せていたことに倣おうかと思っていたが、実際こんな簡単な工夫は譲渡などし難いし、今のところミニ発明の商品化に適したルートもない、と夫に言われてしまった。

私の失望した様子を見て、日本語のできる夫が機転を利かせてくれた。日本の発明工夫コンテストに参加したくないかと聞いてくれたのだ。夫によると、日本では政府から民間までがミニ発明を支持しており、毎年「くらしの発明展」などの発明工夫コンテストが定期的で開催されている。多くの女性が自分のミニ発明を商品化して社会に貢献するというのを奨励しているのだそうである。夫は、日本発明学会（笹沼女史が発明の譲渡に成功した機関）主催の「身近なヒント発明展」を勧めてくれた。

実際、コンテストに参加するという事は、案外大胆な発想であると私達も思っていた。事前に検索して調べてみたところ、幼児が布団を蹴り出し防止に関する特許は、中国と台湾を合わせて100件以上もあるが、日本などの国のデータベース上には見つからなかった。このため、幼児が布団を蹴り出すのを防ぐというのは中国人特有の育児文化と関連しているのではないかと思ったのだ。こうしたテーマで日本のコンテストに参加するのは恐れ知らずという感じがする。だが、私達は参加してみることに決めた。

「身近なヒント発明展」は、本来、日本人しか対象にしておらず、外国人である私達が参加するのは多少困難なところがあった。何度も努力してみたものの無駄に終わるかと思っていたころ、思いがけず学会から参加資料が届いた。しかも、資料費用500円が免除されていた。

私は要項に従い、参加締め切りの2009年7月31日までに参加書類を送付した。コンテストの結果は期限どおり9月初めに公表され、私にも9月11日に選外通知が届いた。その通知から、参加書類の受理日が平成21年8月4日で、受理番号が6-145であったことが分かった。

その間、大いに考えさせられる出来事があった。8月のある日、またしても思いがけず発明学会からの手紙を受け取った。そこには50円切手が2枚入っていた。実は日本にいる友人に頼んで3,000円余りの参加費を払ってもらっていたのだが、コミュニケーションの問題から返信用切手代を100円分多く払っていたのだ。発明学会のまじめな事務局員が、余分な返信用切手代を返してよこしたのだった。私はその手紙の送料が100円を超えていることに気づいた。私達は、学会事務局の全く抜かりのない仕事ぶりに深く感動し、強い信頼を覚えた。私達の発明がもっと“ミニ”であっても、きっと彼らは真摯に向かい合ってくれるだろう。

私も夫も日本へは行ったことがない。コンテストに参加するという“近距離”の接触により、私達の日本に対する理解が深まった。日本人のまじめさ、熱心さ、研究心、規範意識が、深く印象に残った。より感心したのは、主婦がミニ発明に参加することを積極的に促進すれば、本人達の聡明な知恵を発掘できるばかりか、子女の教育にも計り知れないプラスの影響を与えることができるということである。考えてみよう、“発明家”の母を持つ子供がスタートラインでどれだけリードできているかということ。

夫は、今後も機会があれば日本の“発明コンテスト”を中国の発明家に紹介したいと望んでいる。私はと言えば、またミニ発明を考え出し、もう一度日本のコンテストに参加したいと思っている。